

# 地方在住 20年技師のリアルライフ



あさひ総合病院 放射線技術科

若嶋綾乃

## 仕事編

1

Q 診療放射線技師を目指したきっかけ

**A** 中学の時、祖母が旅行中にくも膜下出血で倒れました。私が祖母に面会できたのは手術の2週間後、まだ意識が戻らない状態でしたが、その姿はただ眠っていて今にも目を覚ましそうに見えました。その時「見た目じゃわからないのにどうやって祖母はくも膜下出血と診断されたのだろう？」と不思議に思ったのがきっかけです。父から、CT検査でも膜下出血が判明し手術したこと、術後のCTで脳の浮腫が取れず頭蓋骨の一部を外したままにしていること等を教えてもらい、「CTってすごい機械だな」と思いました。そこから診療放射線技師の存在を知り、「病気や異常所見を最初に発見することができる診療放射線技師の仕事って面白そう」と思うようになり、診療放射線技師を目指すことにしました。

2

Q やりがいを感じる時

**A** やりがいを感じる瞬間はたくさんありますが、その中でも、患者さんから「ありがとう」の言葉をもらったときはいつも嬉しさとやりがいを感じる瞬間です。入職1年目、初めて1人で写真を撮った時に患者さんから頂いた「ありがとう」がすごく嬉しかったのは今でも覚えています。それから約20年、先日乳がん治療をしていらっしゃる方が、「あなたに乳がんを見つけてもらって早10年、今日で術後のフォ

3

Q マンモグラフィとの関わり

**A** 新人の頃はポジショニングが上手に出来ず、当時はスクリーン/フィルムシステムで再撮が容易でなく残念なマンモグラムを提出することも。1人女性技師の職場で悩む日々でした。そんな私を、当時の上司が乳房画像研究会に連れて行ってくれた事が大きな転機に。ポジショニングの悩みはポジショニングの上手い人に教えてもらう、これに尽きます。北陸でマンモの研究会があれば参加し、講師の先生や先輩技師にポジショニング相談。最初は知らない人ばかりで緊張の連続でしたが、だんだん顔見知りが増え参加するのが楽しくなりました。他施設の技師さんと繋がる事で悩みをすぐに相談できる、そんな横の繋がりの素晴らしさを実感しました。今は研究会世話人の1人として、勉強・交流の場の提供に携わらせてもらっています。

4

Q 診療放射線技師免許以外の資格について

**A** 検診マンモグラフィ、X線CT、Ai撮影、手術支援画像、放射線管理士、放射線機器管理士、放射線被ばく相談員、中級ピンクリボンアドバイザー、認知症ケア専門士など持っています。検診マンモグラフィ撮影認定は、入職2年目に職場の指示で取得しました。他の資格は出産後育児に余裕が出てきた頃から、毎年何か学びを深めようと思い、ここ10年ほどで取得したものです。